

Array AOC Preludio quattro

高性能メディアインポーター《プレルディオ クアットロ》

【おもな特長】

- ◎ 4台の光学ドライブからの同時読み込み
- ◎ タッチパネルによる操作
- ◎ インポート結果のプリント
- ◎ サムネイルや画像枚数を見てインポートする検査・シリーズが選択可能
- ◎ 送信エラー時の自動送信リトライ
- ◎ 3重のチェックで重複インポートを防止
- ◎ DICOM文法チェック機能
- ◎ USBメモリやネットワークからのインポートも可能
- ◎ netPDIにも対応 (オプション)

【おもな機能】

- ◎ DICOMサービス
DICOM Storage SCU /
DICOM Modality Worklist Management SCU
- ◎ セキュリティ機能
ユーザー認証 / 入出力ログ保存

アレイの製品は充実したサポートプランが用意されています。
くわしくは、ご利用の販売店またはアレイまでお問い合わせください。

 Array Corporation

アレイ株式会社

151-0053 東京都渋谷区代々木3-42-10
tel.03-3320-3911 fax 03-3320-3696 / sales@array.co.jp / www.array.co.jp

© 2017 Array Corporation. All right reserved. Array Corporation、Array Corporation ロゴは、アレイ株式会社の商標です。
この資料に記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。
この資料の記載内容は2018年4月現在のものです。この資料に記載された内容、製品の仕様などは予告なく変更することがあります。

cn15010245

 Array Corporation

netPDI

2018

画像インポートだけのために生まれた、 新時代の高速インポーター。



他の施設からの画像ディスクは年々増えています。
《Preludio quattro》は増え続けるディスクに対応した高速インポーターです。
操作は患者さまの情報を選択してディスクをセットするだけ。
4枚までのディスクを同時に読めるため、作業時間を大幅に短縮できます。
またディスクを使わず、ネットワークで画像・検査結果・処方を受信する
netPDIにも対応しています。
シンプルな操作、高速な読み込み。
画像インポート・エクスポートのエキスパート、アレイだからできた、
これはまさに、新時代のインポーターです。

*オプションです



操作は簡単3ステップ！

step 1 患者さまの 検索

患者IDを入力し、インポートしたい患者さまを検索します。磁気カードリーダー、バーコードリーダーなどの入力機器が利用できます。もちろん手動で氏名や性別・生年月日を入力することもできます。

step 2 画像データの 読込

PDIディスクはもちろん、PDI非準拠のディスクやDICOM以外の形式の画像ファイルが入ったディスクでも自動判別して読み込めます。USBメモリやnetPDIからのインポートにも対応しています。

step 3 サーバーへ 送信

PACSサーバーに送信するとき、送信する必要のないシリーズや、シンスライスなどの画像数が多いシリーズをあらかじめ送信対象からはずせます。不要なデータは読み込まないため処理時間を短縮できます。

「詳細モード」の利用で、より柔軟に。

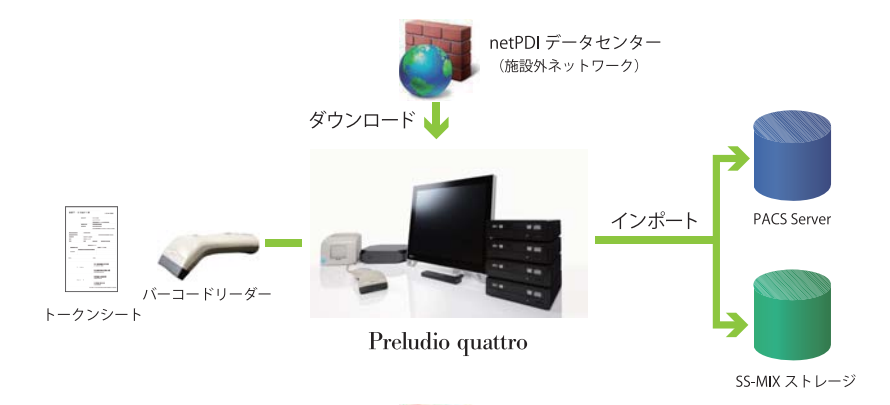
適切なPDIディスクであれば、ほとんどの場合で標準の操作によるインポートが可能です。
詳細モードでは、送信する検査・シリーズの選択や、患者情報の編集ができますので、より柔軟に作業ができます。

netPDIにも対応！

ディスクだけでなくnetPDIからもデータがインポートできます。netPDIのデータをインポートする場合も、操作の流れは変わりません。

オンラインでnetPDIを利用する

施設内システムをファイアウォールなどを介して施設外のネットワークに接続できる場合は、Preludio quattroで直接データをダウンロード・インポートできます。
Preludio quattroでは患者さまを選択したあと、netPDIのトークンシートを読み取り、データをダウンロードします。
ダウンロードしたデータはディスクの場合と同様に、患者情報を適合理化してPACSサーバーなどに送信します。



USBメモリを使ってnetPDIを利用する

施設内システムを施設外のネットワークに接続できない場合は、USBメモリを使います。
まず、施設外と通信できるコンピューターのnetPDIダウンロードリーダーでトークンシートを読み取り、ダウンロード・復号したデータをUSBメモリに書き込みます。
そしてPreludio quattroでUSBメモリからデータを読み取ってインポートします。
Preludio quattroでは患者さまを選択したあと、USBメモリをセット（順序は逆でもかまいません）。USBメモリに入っているデータ一覧が表示されますので、そのなかからインポートしたいデータを選択するとデータを読み込みます。
USBメモリから読み込んだデータはディスクの場合と同様に、患者情報を適合理化してPACSサーバーなどに送信します。

